

福岡市主催の胃がん検診における バリウム流入（誤嚥）事故について

平成27年8月5日、福岡市主催の健康診断での胃がん検診中、大量のバリウムが肺に流入するという、過去に前例がないほどの大きな事故が発生しました。にも拘わらず、厚生労働省への報告義務を怠るところか、受託者であるすこやか健康事業団の理事会にも報告が行われていませんでした。

事故から5年が経過した後、この事故が新聞に取り上げられたことから、すこやか健康事業団の理事長が事故の存在を知る事となり、初めて事故の原因究明と再発防止に向けた動きが始まりました。

その間、家族の方は事業団の報告や対応に疑問を感じ、福岡市に対して再三、事故の原因や処置について調査依頼をしたにも拘わらず、独自の調査は一切行わず受診者本人の自己責任として事業団からの調査報告をそのまま家族に伝えるだけでした。

私は3年前、家族の方から相談を受け、この事故の調査を行ってきましたが、事業団の一部署での隠蔽工作が行われたとも思いたくなるような疑問点が幾つも浮かび上がりました。その疑問点について市に説明を求めてきましたが、事業団の代弁者と思えるような回答しか返ってこず疑義は増すばかりです。